



僧都川の河川敷でゴミ拾いを行った平城小学校5年1組の皆さん



川底に埋まっていたビニール袋を拾う児童



愛は南から――

ポイ捨てやめよう 決まり守って気持ちいい川づくり

平城小学校5年生

僧都川環境美化活動

「何が多かった？」

先生の問いかけに「タバコ」

「タバコが一番多い」と口々に答える子どもたち。

二十歳になったらできること、ではありません。

これは僧都川の河川敷でゴミ拾いを行ったあとの先生と子どもたちとのやりとりです。平城小学校では毎年5年生が総合的な学習の時間を活用して僧都川の環境学習に取り組んでいます。

す。この日は1組の児童26人が約1時間かけて観栄橋付近の河川敷のゴミ拾いを行い、ペットボトルやバケツなど用意した袋に入りきれないほどのゴミを拾いました。そのときに最も多かったゴミがタバコの吸い殻です。

清掃活動を企画した高田悠生^{はるか}くんは「こんなにたくさんポイ捨てがあることに驚いた」と話

します。
担任の好岡達也^{たつや}先生が続けて聞きます。「どんなところに多かった？」

子どもたちから「見つけにくいところ」「橋の上からでは見えなかった」という声が上がってくる。「わざわざ見つけにくいところに捨てている人の気持ちはどうかな。悪いとわかっていてやっている人の気持ちはどう？」

先生の投げかけに答えていくうちに、子どもたちは決まりを守ることの大切さを学び、地域への愛着を深めていきます。

平城小学校では啓発活動にも積極的に取り組んでいます。校内にとどまらず、病院などが集まる施設にポスターを貼ってもらうことで、地域の環境美化への意識を高めようとはがんばっています。今後は、川を管理する愛媛県と一緒に歩道に啓発看板を設置する計画もあります。

高田くんは、「川沿いを通る人が気持ち良くなるように、これからも清掃活動を続けたい」と目を輝かせました。